

災害ボランティア 能登第2弾



日本財団の「令和6年能登半島地震に関わる支援活動」の助成金を受け、4月30日(火)～5月3日(金)の3泊4日。スタッフ3名+志願した寮生・訓練生5名で石川県七尾市に行ってきました。中2日が活動日。今回はボラセンの方の指示により、両日共に他のボランティアの方と同じチームでの活動となり、指定された家屋のご家族の要望にも耳を傾けつつ、“連携や意思疎通”の重要性を痛感する場面が多い活動となりました。

- Q1:どんな気持ちで参加しましたか。
Q2:被災した地域を見て何を感じましたか。
Q3:被災された方の方に行き、作業や会話をする中で何を感じましたか。
Q4:作業をする上で気をつけたことや大変だったことはありますか。
Q5:最後に一言

<MZKM君>

- Q1:被災地の力になればと思い参加しました
Q2:私達の普段の生活は当たり前ではないと感じました
Q3:復興に向けて前を向いておられる姿が印象に残っています
Q4:災害廃棄物の片付けは大変でした。怪我や周囲に迷惑をかけないように気をつけました
Q5:災害ボランティアに参加させていただき、誠に感謝申し上げます

<HYSD君>

- Q1:ケガなどしないように気を付けようという気持ち
Q2:アスファルトに長い亀裂が入っていたりして、自然災害の恐ろしさを感じた
Q3:特に高齢者の方などは被害から立て直すのが大変そうで気の毒に感じた
Q4:捨てる予定の物もなるべく丁寧に扱って、持ち主の前であからさまに破壊するような行いは避けた
Q5:貴重な経験ができて良かったです。またこのような機会があれば参加したいです。

<MTUR君>

- Q1:被災した能登の人たちを助きたい気持ちで参加しました
Q2:被害の大きさを感じました。そんな中でも復興に向けて頑張っている能登の人たちの強さも感じました
Q3:被災された方の方の家を見て、もし自分の家や家財が同じ様な被害にあったらと考えてしまう。大切な物が壊れてしまうのは想像よりずっと苦しいことなのだと感じました
Q4:物を運ぶ時はかなり気をつかいました。依頼者の中には、作業中に捨てる物を決める人もいたので、壊してしまわないよう注意を払っていました
Q5:民宿や居酒屋などには被災する前のパンフレットやポスターなどがあり、一刻も早く以前の姿を取り戻してほしいと強く思います

<FKSW君>

- Q1:少しでも力になれば
Q2:ニュースで見た珠洲市を想像していたので、正直外見はそうでもなかったが、中身、家の中や心の中の方が酷いと思った
Q3:相当心が疲弊されているなどと思った。悲しさと寂しさを感じた
Q4:怪我 / Q5:おばあちゃんの依頼を最後までやれず残念



<OGR君>

- Q1:誰かのために動きたいという気持ちとボランティアという経験を積みたいという気持ち
Q2:痛々しさと、それでも復興は進んでいるんだなという多少の安堵
Q3:かなり困っているように感じた。回収できない災害廃棄物もあって申し訳ないと思った
Q4:災害廃棄物の分別が大変だった。自分だけでは判断のつかないものが沢山あった
Q5:もっと作業をしたかった